

ヒューストンにおける最新治安情勢と対策 ～最近特に注意すべき3つの犯罪手口～

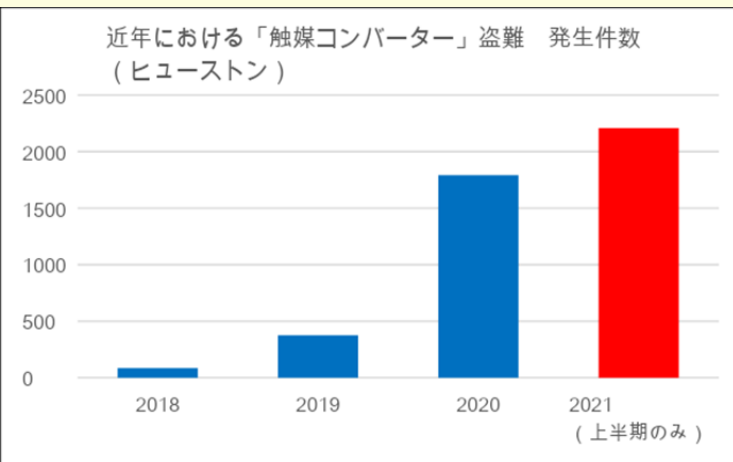
今回は、私たちの安全な生活を脅かす可能性のある身近な犯罪手口の最新の傾向と、その対策を紹介します。

(在ヒューストン日本国総領事館)

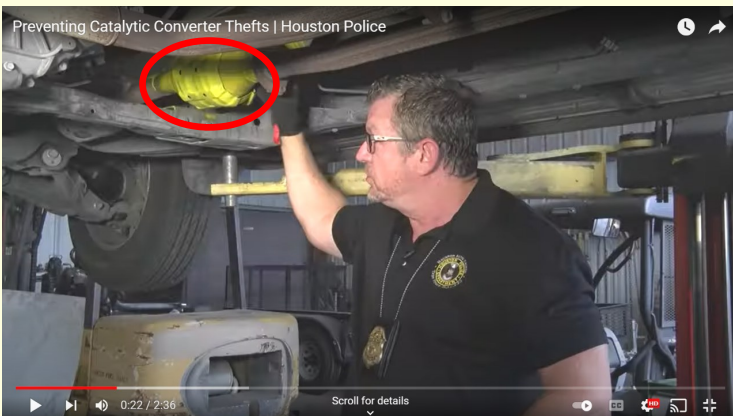
1 触媒コンバーターの盗難

① 発生状況

車両底部のパーツで、排ガスに含まれる汚染物質を浄化する装置である触媒コンバーター(catalytic converter)の盗難が、近年、世界的に多発しています。ヒューストン(当地)においても2018年頃から被害が出始め、とりわけ2020年頃から急増傾向が顕著になっています。同パーツに希少金属が含まれており、転売すれば高額で取引が可能であることが背景にあるとされています。ちなみに、昨年(2021年)末には、総領事館付近の駐車場においても連続発生しました。



② 犯行手口と被害額



YouTube動画「具体的な対策(ヒューストン警察作成)」

<https://www.youtube.com/watch?v=yTaS4IL0pWw>

赤丸囲い部分が触媒コンバーター

主に路上や商業施設の駐車場に駐車中の車両が標的になっており、ジャッキで車両を持ち上げ、車両底部に潜って電気ノコギリ等で同パーツ部分を切断すれば、約3分で犯行が完結します。また、警戒役を車両の周囲に立たせ、白昼堂々と、人通りのある場所で敢行される場合もあります。被害に遭った場合の修繕コストは、概算で3,000ドルから10,000ドルに達するとのことです。

③ 対策

- 監視カメラ設置の駐車場等警備が厳重な場所に駐車することを心がける。

- ヒューストン警察は、予防策として、同部品に車両番号を削る、蛍光ペイントで塗装するなどの固有のマーキング措置が有効であると指摘。
- 同部品をカバーするためのシールドを取り付けるなどの方法も検討。

なお、万一、犯人と現場で鉢合わせなっても、自ら対峙することを避け、まずは警察に通報するなど命を最優先にした対応をお願いします。

2 ロード・レージ(Road Rage)

① 発生状況

本誌「昨年8月号」でも紹介しましたが、依然として、「Road Rage(「割り込み」や「追い越し」等交通マナーを起因として生じた怒りによって暴行・傷害に発展する事案)」が、高水準で発生しています。接触行為に至らず身体に実害の伴わないケースもありますが、多くの場合、口論から暴力沙汰にエスカレートしており、最悪の場合は銃使用の殺人事件にまで発展するケースも散見されています。

② 対策

- 現場での心がけ・対策として、以下のような対応が有効とされています。
- 相手と視線を合わせない
- 相手の「怒り」に対して「怒り」で応じない。
- 攻撃的なジェスチャーは避ける。
- 相手を刺激する「クラクション」は避ける。
- 早急に警察に通報する。

3 様々な形態の詐欺

① 発生状況

- 最近、当地においても以下のような詐欺手口が見受けられています。
- PCR検査の申込みと称してソーシャルセキュリティ番号やクレジットカード番号等の個人情報の入手を意図した手口。
 - 駐車場の料金所付近に「支払手続」と称して、偽のQRコードを読み込ませ、架空請求につながるアプリに誘導する手口。
 - ほかにも「口座凍結」を示唆する連絡が前触れもなく届く等、依然として様々な形態による詐欺が横行しています。

② 対策

- 個人情報の提供は先方が信頼できるかを冷静に判断。相手を容易に信じない。
- QRコードをスキャンする場合は、元の画像の上に貼られた偽物ではないか、必ず確認。
- いきなりの電話でも、相手のペースに乗らない(周囲の人に相談すると冷静な対応ができる場合があります)。
- 平素から職場や家庭で当地治安にかかる最新情報を共有する等防犯意識の高揚を図る。

「慣れ」こそが最大の敵

赴任当初は、安全対策に留意していても、当地での生活に慣れてくると次第に安全対策への気配りがおろそかになる場合があります。念入りに安全対策を準備したにもかかわらず、半年間も危険な目に遭わなかった、などの状況になると、自然と気が緩むこともあるでしょう。安全対策をおろそかにすると、それだけ危険な場面に遭遇する可能性が高まります。普段から治安にかかる情報収集を欠かさず、定期的に安全対策を見直すなど気を引き締める機会を持つことが自分の身を守ることにつながります。

